

通俗
天理教樹下問答
完

香蘭女史筒川之志子著述

神道總裁一品幟仁親王殿下御親翰文

特67
315

014443-000-6

特67-315

天理教樹下問答（通俗）

筒川 すえ子（香蘭）／著

M27

ABB-0821



近江口
益智新友社藏版



伏ア惟ルニ

神道
皇國
大道

皇祖ノ懿訓ニシテ

存スル所以ナリ夫
天壤ト窮リナキハ則チ斯道

皇國ノ臣子タル者誰カ奉戴セザル者ア
ランヤ是レ余カ七旬ニ餘ル身ヲ以テ



總裁ノ命ヲ拜シテ辭セサル所ナリ

苟モ職ヲ奉スル者宜シク余カ意ヲ

體シ眼勉從事

皇道ヲシテ隆盛ナラシメンコトヲ望ム

神道總裁一品幟仁親王

天理教樹下問答のはしがき

余は暑を避んが爲に勢州二見浦へ旅せし折彼の有名なる鈴鹿山の麓或る大樹の下に憩ひし甲乙の二人樹下に問答をなすあり傍にありてきくに一々皆天理教のこと中には耳新しき説も多ければたぐがまゝ手帳に記せしに遂に四拾餘の間と答とありのち安濃の津に至り旅窓に於てこれをよむに中々面白味あり今これを已れ一人にて嘗んも惜しき心地と且は利己主義の嫌もあらんこれを人にも施さばやと旅のつれづれ一冊子にものせり名けて天理教

樹下問答といふ若し世を益するは著者の幸福のみならずやされど其説のよきと悪きは余の關り知る所にあらず唯讀者の判断力よまかすのみ

明治廿七年七月上旬安濃津に於て

著者一るす

通俗天理教樹下問答

近江

香蘭筒川をゑ子著

(一)天理教はたれがとじめたるや

若年山みまといふ婦人あり

中山まきとは何國いかなる人なるや

若菜良助下大和國山邊郡丹波市町大字三島五番地平民農中山善兵衛の妻に

て同郡三味田村前川某の女なり

中山善兵衛のめいありや

答けうそは八十年十一月をいちごといて明治二十年二月十八日死亡しそ

の時の同郡浄土宗まがたの善福寺にはうむりーが昨年さらよ三島へはち

をこーらへかいとうしせんげのーきを行へり其大なるたてものは他國の

王ころも及ばず日々諸方よりさんけいにんたえまなしかいそーきの時

は大坂てつだうはさんけい人のべんをはかりならへのほうふくまつぶを
だし二割がたきーやちんをげんせりさんけいにんの多きをみるべし

(四)けうそのとうぞく人はなきや

荅中山新治郎といふはけうそのとうぞくにん天理教會長なり

(五)けうそのときたることがらはいかん

荅十柱の神、このよとじまりだーのこと、月日のこと、てんり人道のこと、助
け一條のこと、かぐらづつめのこと、國家のこと等なり

(六)天理王の命とはいかん

荅十柱の神のとうめいなり十柱の神はくにとこたちのかみ、とよくもぬ
のかみ、をほとどのぢのかみ、をほとどのべのかみ、をもたるとのかみ、あやかー
こねのかみ、くよのさつちのかみ、つさよみのかみ、いざなぎのかみ、いざ
なみのかみ

(七)天理教會のもくてきははいかん

荅惟神の大道をせんやうするがもくてきはあり

(八)天理教は道理にかなひたるや

荅よく道理にかなへり其上中山けうそのとく所はだれでも見かりやすーは
れどもすゝひよまたがひまそくいみふかく或る學者はあさましーらん
がくどのんがへ又ある學者のふかき神理てつがくとかんがへまーた

(九)やそに十かい佛教五かいじゆだうにどりんごじようわり天理教おと何があるや

荅まことこの道をまもるにありそれを行ふにちり

(一〇)そのさうもくとふ

荅ちうくんわいこくもをやに孝なるも兄弟に友なるもふうふなかよひも
もだちにまぢとなるもすべてーんりよよる

(一一)天理教にあればはかのまうけうの無用なるや

荅むようなり天理教はせのいのーんりをもつてをります

(一二)天理教のーんじやは病氣にぬーやのぬらぬか

答はついで一からす病ひはいやくのちからがらんじんなりそれでなそらぬ
時は十柱の神即天理王のみことの助けをうけるの外なし

(一三)天理王のみまとをいのるといかにれいげんあるや

答病ひのなをりからだこゝろともにあんらくになる

(一四)をこうずいはんかん

答一度神にさしげたるものなればもつともたつとし

(一五)天理教の信者の何人あるや

答天理教のまことの神をまつる故まことのまごがたみがあるそれゆゑ日々

まんじやはふえるのみ今年の二月頃の三百万人あり

(一六)天理教をよくいふたる書物有りや

答あります、天理王のまもり、一んりのさいばん、てんりたいぢ、せうまじや
う、道おへる等なまされとこれらの本のたゞわるくちまをわめたるもの
にて三文のねうちもなき本なまといふ

(一七)天理教をよくいふたる本のありや

答ありませ、神道天理教の話といふ本にてまだ出版に成りませぬが作者
の大成教の権中講義服部先生にて益智新友主筆活眼山人の序文有り有
名なる従四位勳四等谷村晴光君閣下の題辭もあまてなかくよさそうな
本ですそいで其うりだ一所の近江國水口村の御城内益智新友社なり

(一八)まだ出版にならぬ本をどうして一れるや

答こうあくにとりてしる、其本のねだんは五銭より其本の中には
敬神愛國の道、天理教のわけ、中山教祖の人となり、みかぐら歌、そてふり
等のことをくましくのべやうけう佛教などくしむ一をくらべたるもの
です

(一九)なせとやくしゆつをんせざるや

答私もまつてゐますなれどもなみつなるをいれるゆゑそれがたみせら
本まつてゐるといふ

(二〇)天理教の本部はどこにあるや

答大和國山邊郡丹波市町大字三島にあり分教會や支教會の數は多く斯道會第一號は京都河原町の分教會にしてそれより號をかさねて今日の所にては二千三四百號迄あるといふ

(二一)たてものゝりつとなる教會のありや

答たくさんある大和の本部をぞけて私のみた所でわ郡山の分教會、西京の分教會、梅が谷の支教會、島ヶ原の支教會、甲賀支教會、八日市支教會等は中々けんちく壯觀こうぞうびれいにして大みようのをしるかどをもわれ大學校かどをも見るゝあり又水口支教會は今ふーん中事務所だけでけがりましたこれ又りつとなものにしてまかも水口町のはんどをりのよき場所あり

(二二)中山教祖は人間にちりはこりのことをいわれや

答人心はかたちなけれと其入物たるからだは形があるゆゑ時ありてはから

まんの心、ごうよくの心、ひだうの心、がそこりますすこれが心のちりはこりなればこれをさうてせなけつにせよとのをしへなり

(二三)人間にはこのはこりのなきものありや

答ひかーすとのをのみことでさへこのはこりがありしなりさればにや出雲一國へーまながーにわいたまひたりこの命の天照太神の弟神と申します

(二四)教祖みきさんは如何

答教祖も多少ありーならんされと教祖は大智大徳なればわしらは教祖よりりはこりのありしことはしらぬ

(二五)天理教のをてふりは何のためか

答かぐらづとめのためなり神樂づとめのはじめは天の岩戸へ天照太神のをかくれの時いまとの前よて神々が神樂をなせりこれがそのとじりなり

(二六)男女入りませりてかぐらづとめのためしありや

答天の岩戸の前にて男神女神いりませりてこれをなせり中よもあまのうそ

めのみよとはたふくにしてかぐらひもゆるよほととせも一ろかりしといへり

(二七)日の丸の扇をもつはいかん

答禮式の時扇をもつ人のよく知る所中山教祖は愛國心に富みたる人なれば日本のはたじるしをすりまみたるなり日の本なればなり

(二八)すま一學問ある人やよりくつをいふものは天理教を信せぬはなせなるや

答人の一んこうは學問とりくつのみよらぬものなり天理教は行をもつて言を証するの教にしてしんじや同志の相愛はもちろん廣く衆を愛します故に言よは晴にして行よは敏なり今乃世乃言ふ丈の十分の一も行ふを得ざるなまいる學者やよりくつゆい乃一んするを得ざるなり

(二九)天理教者は子弟の教育に怠るなきか

答中々をこたるはけはない務めて教育をすゝめるなり故に明治廿三年十月三十日の教育に關する勅語は時々奉讀して聖旨にそむかざらんま

をちかひをりませ

(三〇)天理教の事をけんさうせんには如何

答一よは教祖があらわしたる書をよむにあり二よは教祖の弟子につきて其言行をさくよあり三よは教會所について其言ふ所其行ふ所をみるにあり

(三一)教祖のこゝらへたる本の何々なるや

答みかぐら歌全一冊定價八錢其他には天理教の一切經ども聖書ともいふべきものありこれはまだ世に公にせざるものよてまやはんなり紙數大凡四百枚五冊に及かつ天理教一切の事は此書の内よあり實に教祖の作にかゝるものなり

(三二)其本を得るはやすきや

答實に天理教秘密の本にしてこれを得ること中々むつかしきには其本をみるも多くはにせ本にきて真本少し私も其本を見たることあり唯益智新友社の某氏は真本を數回熟讀して其かなめはわんきせられたれば某氏よ

り其説をさしたるなり

(三三)天理王の命ぞわがひる時はいかなる幸福を得るや

答家内和合にて娘はよきむこを得むすあひよき嫁を得てこゝに始めて完全なる夫婦和合なるふうふがでけます又學問上は於ても商業上は於ても農業工業よりいろくの事業に於ても幸福を得ざることなし

(三四)天理教の世の文明につきてはつたつて得るや

答然り天理教は文明のせんとすまやとなり學問の指南車たるなり故は無學文盲の人にもだんく學問もすゝみ智慧もまゝです

(三五)天理教のとつたつのもよういかん

答日進月盛しんじや増加の比例は年數のかけあいに同じ例せばはじめ一年に一人ます時は二年目よは四万人三年目には九万人となます其信者のふえるのはやきこと古來天理教にまさるものなし

(三六)天理教のさかんとぼらすのかんじいゝん

答やそ教などは天理教の盛んになるを何共思はぬものゝ如しされどもぼらすはかくべつにいろくのかんじをいなきとさうかしてぼくめつせんとします然るに天理教はいよくまそく盛大になるをみてほる寺は和尚はためいきついてなげさま一た其なげくれば法のためにあらずして己れのかちすぎのためでた

(三七)ぼらすが天理教をぼくめつするのゆだん如何

答いろくあります説教の演説に又己けのわからぬ本をこゝらへ狂歌をつくり一ツとせいのかぞへ歌をつくりーにもものくるいむちやくちやに天理教をこぼらますそしてぼらすは自分のかんじんの宗教よははねをらす天理教のさかんになるをうらむばかり故になんにもありませぬ却つて人がぼらすをせらひはす

(三八)月日はまことの神と教祖はどのれーや

答月日の物体なりされど月日がなければ人間をこじめ其他の動物がくらす

ことがでけぬ故に其徳の廣大なること神の如し神の功用斯の如し

(三九)此世のはじめはどろろみなるか

答天地まだわかれざるときはこんとんたる雞子の如しとは古書に傳ふる所
又此世は始めは火のたまなりといふ説もありされど教祖はどろろみなり
ととかれ一蓋一泥海とはたんよ其文字の如きわみにあらず一て名狀すべ
からざるのきなり

(四〇)中山教祖の佛法信者なりとさくことたりて然るや

答然と五重相傳迄受一人なり然れ共佛法の神道に及ばぬことをとやぶられ
たるなり教祖日々の言行のそぐれたるもの多かりし

(四一)教祖が七十八歳の時ひのこかまをつげられたれば十八位の娘にみえ一とはま
ことか

答教祖のことばと行ひの常にひとつで少もちがうことなり故に養生法も
よく生理學にかない老ても達者でたり一其故は信徒がこれをとる時の其

威光かくくとして一團のれいき身邊をまといすこぶるわかくみうけら
れいなり

(四二)天理教の始めは轉輪王又天輪王と書きしも今は天理王とかくといへりはた
て然るや

答然るとなり天理王の命の教祖の稱する所より一一定せし者なり

(四三)天理教會の學校ありや

答まだ學校のもうけなしされどいまもくろみ中なれば數年の後よは本部に
は神道大學校高等學校を設け各分教會等も於ても尋常小學校高等小學校
女子裁縫場皇典研究所等を設け専ら教育に力をつくすはずなりわに盛大
ならずや

(四四)外國へも布教するや

答朝鮮及支那をはじめ東洋諸國は勿論をいへ西洋各國へ傳道するといふ
ちなみよ記す天理教の信者が一人ませば佛教などの信者が一人へる割合

あり故に天理教のいよく盛大なる時は佛教のいよく衰へる時な
り今や天理教は日の出の勢ひ佛教はこせう落日のありさまなるか一は榮
え一は衰ふ神道の盛んなるは國のために賀すべきなり天理教は神道直轄
にしてじゆんすいの神道なり

通俗天理教樹下問答終

明治廿七年七月廿四日印刷
明治廿七年八月五日發行

定價金二錢

滋賀縣愛知郡愛知川村 著述者 筒川 とも子

滋賀縣生田郡南比都佐村大字下駒月第八十七番地 増井 久治郎

三重縣鈴鹿郡龜山町大字東丸拾番屋敷 加藤 五百記

滋賀縣甲賀郡水口御城内 印刷者

發行所 益智新友社

